

九州大学附属図書館のWebサイトに関するアンケート 実施報告

林, 豊
九州大学附属図書館eリソースサービス室リポジトリ係

大田, 海
九州大学情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当

堀, 優子
九州大学附属図書館利用支援課

星子, 奈美
九州大学附属図書館eリソースサービス室リポジトリ係

<https://doi.org/10.15017/1523959>

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2014/2015, pp. 46-54, 2015-08. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

報告

九州大学附属図書館の Web サイトに関するアンケート実施報告

林 豊[†] 大田 海[‡] 堀 優子[§] 星子 奈美^{**}

<抄録>

2014年12月から2015年1月にかけて実施した、九州大学附属図書館の Web サイトに関する利用者アンケートの結果を報告する。

<キーワード> 大学図書館, Web デザイン, ユーザビリティ, ディスカバリーサービス

Questionnaire Report on Kyushu University Library Website

HAYASHI Yutaka OTA Umi HORI Yuko HOSHIKO Nami

1. 背景

2013年3月、九州大学附属図書館の Web サイトは、従来の構成を全面的に見直しリニューアルした。多様な学術情報を統合的に検索するディスカバリーサービス「世界の文献(旧称 Cute.Search)¹」をトップページに置いたシンプルな画面となり、スマートフォンでの表示にも対応するなど、新たな技術を積極的に採用した。さらに同年12月、図書館システムの更新に伴い従来の OPAC を廃止し、所蔵資料、機関リポジトリ、電子化された貴重資料画像等の検索機能を、同じくディスカバリーサービスの「九大コレクション(旧称 Cute.Catalog)²」に一本化した。

こうした大きな変化に対し、利用者からの意見や要望が日々寄せられていたが、Web サイトのリニューアルから1年弱を経て、利用者が Web サイトに対しどのような印象を持っているのか、必要としている機能は何か、幅広く意見を募りたいという動機から、今回のアンケート調査を実施することとなった。

アンケートの作成は、附属図書館が保有するシステムの企画・立案を行う「図書館システム検討室」内の Web チームが担当した。設問は大きく分けて、Web サイト内の検索機能・利用案内・各種手続きの利便性を問うものとした。特に検索機能に関しては、アンケート実施前より「トップページの検索窓を『九大コレクション』に変更してほしい」という意見が、利用者からも図書館職員からも寄せられていたことが、問題意識として大きな前提となっていた。

2. アンケート調査の実施について

2.1. 調査目的

Web サイトおよび Web サービスの利用実態を把握し、傾向を分析することにより、それらの改善を図るとともに、次期図書館システム更新の検討資料とすること

2.2. 実施主体

九州大学附属図書館 図書館システム検討室

2.3. 調査対象

- ・九州大学の教職員、学生
- ・九州大学附属図書館 Web サイトを利用する学外者

2.4. 調査期間

2014年12月1日(月)～2015年1月31日(土)

2.5. 調査方法

Web アンケートフォーム(無記名式)

2.6. 調査の周知方法

- ・図書館 Web サイトのニュース³
- ・九州大学所属教員に対するメール通知
- ・九州大学所属学生に対するメール通知
- ・広報誌「きゅうと NEWSLETTER」(2015年1月号)
- ・図書館公式 Twitter (@QLib_info)
- ・返却期限票(中央図書館)
- ・館内掲示(中央図書館)

3. 調査結果

3.1. 回答者の基本情報

回答数は、計 397 件であった。回答者の内訳は、表 1～4 のとおりである。学部生・大学院生の回答が全体

[†] はやし ゆたか 九州大学附属図書館 e リソースサービス室リポジトリ係 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: hayashi.yutaka.927@m.kyushu-u.ac.jp

[‡] おおた うみ 九州大学情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: ota.umi.444@m.kyushu-u.ac.jp

[§] ほり ゆうこ 九州大学附属図書館利用支援課 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: hori.yuko.993@m.kyushu-u.ac.jp

^{**} ほしこ なみ 九州大学附属図書館 e リソースサービス室リポジトリ係 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: hoshiko.nami.463@m.kyushu-u.ac.jp

の60%を占めた。なお、文学部の回答者数が多いのは、司書課程の受講者に対しアンケートへの協力を促したためである。

本報告では、表2の身分のうち学部生・大学院生・教員の3種類について、「学部生」と「大学院生・教員」の2つにグルーピング⁴し、回答傾向を詳細に分析した。顕著な差が見られた設問については、調査結果ごとにコメントを加えた。

表1 年代（必須項目）

10代	26	6%
20代	221	56%
30代	53	13%
40代	51	13%
50代	35	9%
60代以上	11	3%

表2 身分（必須項目）

学部生	148	37%
大学院生	91	23%
科目等履修生・研究生等	1	0%
教員	73	18%
職員	77	20%
学外の方	7	2%

表3 学年

学部1年	17	7%
学部2年	56	23%
学部3年	29	12%
学部4年	47	20%
修士課程	59	25%
博士課程	31	13%

表4 所属

文学部	71
教育学部	9
法学部	5
経済学部	9
理学部	21
医学部	12
歯学部	3
薬学部	2
工学部	27
芸術工学部	5
農学部	8
21世紀プログラム	1
人文科学府	12
地球社会統合科学府	4
人間環境学府	10
法学府	1

法務学府（法科大学院）	5
経済学府	2
理学府	4
数理学府	6
システム生命科学府	4
医学系学府	4
歯学府	1
薬学府	0
工学府	9
芸術工学府	3
システム情報科学府	11
総合理工学府	14
生物資源環境科学府	2
統合新領域学府	3
基幹教育院	1
人文科学研究院	4
比較社会文化研究院	4
人間環境学研究院	5
法学研究院	1
経済学研究院	4
言語文化研究院	4
理学研究院	3
数理学研究院	0
工学研究院	6
システム情報科学研究院	7
農学研究院	4
情報基盤研究開発センター	2
その他	58
無回答	26

さらに、回答者の図書館への来館頻度は表5のとおりであった。学部生（回答数148件）と、大学院生・教員（同164件）を比較すると、学部生の方が来館する頻度が高い。

表5 回答者の来館頻度（必須項目）

	全体	学部生	院生・教員
ほぼ毎日	36	14	7
週に2,3日	98	54	37
月数回	137	62	61
月1回程度	47	5	29
それ以下	67	13	30
行ったことはない	12	0	0

3.2. 図書館 Web サイトの利用頻度

設問「図書館 Web サイトをどれくらいの頻度で利用しますか？」に対する回答は、表6のとおりであった。表5と比較すると、実際の来館より Web サイトの利用頻度の方がやや高い。

来館頻度とは対照的に、学部生より大学院生・教員

の方が、Web サイトの利用頻度が高い。

表6 Web サイトの利用頻度

	全体	学部生	院生・教員
ほぼ毎日	58	9	33
週に2,3日	115	46	63
月数回	113	52	38
月1回程度	45	20	15
それ以下	62	20	14
無回答	4	1	1

3.3. 図書館 Web サイトの利用目的

設問「図書館 Web サイトをどのような目的で利用したことがありますか?」に対する回答は、表7のとおりであった。回答者の約9割が資料検索を目的としているが、より詳細に見ると、学部生の場合は開館時間を調べる目的での利用も多い。前述のとおり来館頻度が高いためだと考えられる。

表7 Web サイトの利用目的 (複数回答可)	全体	学部生	院生・教員
探している資料を検索するため	354	132	158
貸出延長や演習室の予約などを Web 上で申し込むため	172	74	69
図書館の開館時間を調べるため	168	88	55
図書館のサービスについて利用方法を調べるため	86	36	30
図書館で行われるイベントや講習会の情報を見るため	52	18	19
その他	24	4	8
無回答	13	3	2

3.4. 図書館 Web サイトの利用環境

図書館 Web サイトを利用する場所および端末については、図1,2の回答結果となった。場所については、約6割が大学内からの利用である。端末については、約7割がPCから、約3割がスマートフォンやタブレット端末からの利用、という結果が出た。身分別に見ると、大学院生・教員の典型的なスタイルとして研究室内のデスクトップPCからの利用が伺える。学部生はスマートフォンからのアクセスが34% (2位) と顕著に多い。

大学院生・教員は長時間学内にいるからだろうか、自宅からのアクセスも学部生のほうが若干多いことも、リモートアクセスサービスの観点から注目したい。

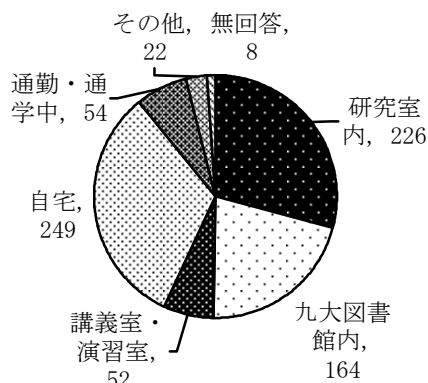


図1 Web サイトを利用する場所 (複数回答可)

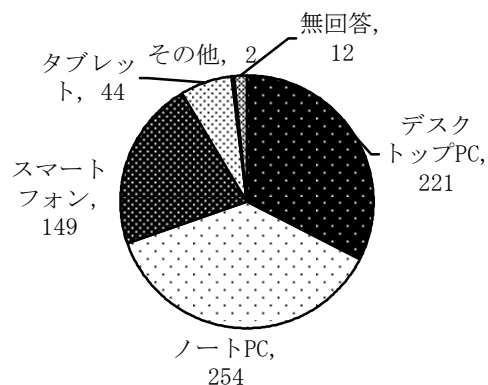


図2-1 Web サイトを利用する端末 (複数回答可)

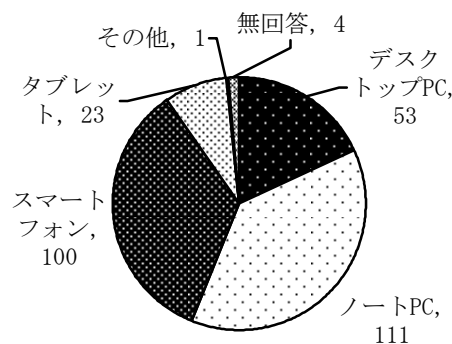


図2-2 Web サイトを利用する端末 (学部生)

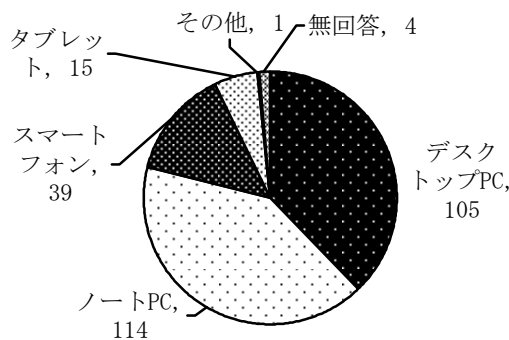


図2-3 Web サイトを利用する端末 (大学院生・教員)

3.5. 図書館 Web サイトのイメージ

図書館 Web サイト全体のイメージについて、図3のとおり6つの観点から評価してもらった。「思う」=5点～「思わない」=1点の5点満点でスコア化し、観点別のスコアを算出したところ、「メニュー構成が分かりやすい」と「操作方法が分かりやすい」が2.9と、中間値の3を下回る評価となった。

3.6. 検索機能について

図書館 Web サイトの検索機能に関する設問に対しては、以下の回答が得られた。

1) 普段、何を探するために検索機能を利用しますか？

上位3位は、「図書」「雑誌」「日本語の論文」の順である。ただし、身分別に見ると、学部生は「図書」「日本語の論文」「データベース」、大学院生・教員は「図書」「雑誌」「電子ジャーナル」であった。

表8 検索する資料の種別（複数回答可）

	全体	学部生	院生・教員
図書	352	140	145
雑誌	173	44	99
日本語の論文	147	65	61
データベース	121	48	54
電子ジャーナル	119	20	79
日本語以外の論文	89	23	54
電子書籍	69	16	45
デジタル化された資料	38	10	17
大学所蔵の貴重資料	29	9	12
九大研究者の研究成果	22	5	9
新聞	20	7	7
博士論文	18	2	10
マイクロフィルム	9	3	5
科研(科学研究費補助金)	8	1	7
教材	6	3	1

視聴覚資料(DVDなど)	3	0	1
その他	2	1	0
無回答	14	3	2

2) 上記以外に、何が検索できると良いと思いますか？

結果は回答者の身分によって顕著な差が出た。上位3位は、学部生では「過去の試験問題・レポート課題」「研究分野の入門書」「講義の教科書・参考書」であった。大学院生・教員では「他の大学図書館の蔵書」「世界中のデジタル化資料」「公共図書館の蔵書」「修士論文・卒業論文(挙げたのはほぼ大学院生)」であった。

表9 検索したい資料の種別（複数回答可）

	全体	学部生	院生・教員
研究分野の入門書	81	47	27
修士論文・卒業論文	75	35	32
過去の試験問題・レポート課題	69	60	7
講義の教科書・参考書	67	38	21
公共図書館の蔵書	65	17	32
無許諾で利用できる教材や画像	56	12	27
新着図書	55	15	22
世界中のデジタル化資料	52	11	33
大学院入試の過去問	51	31	16
他の大学図書館の蔵書	49	6	33
よく借りられている図書	46	21	10
教員のおすすめ図書	42	16	19
講義の配布資料	40	24	9
よく引用されている論文	35	22	11
シラバス(講義内容)	27	15	8
ジャーナルのインパクトファクター	23	1	20
有名な研究者(例:ノーベル賞受賞者)の著書	22	8	11

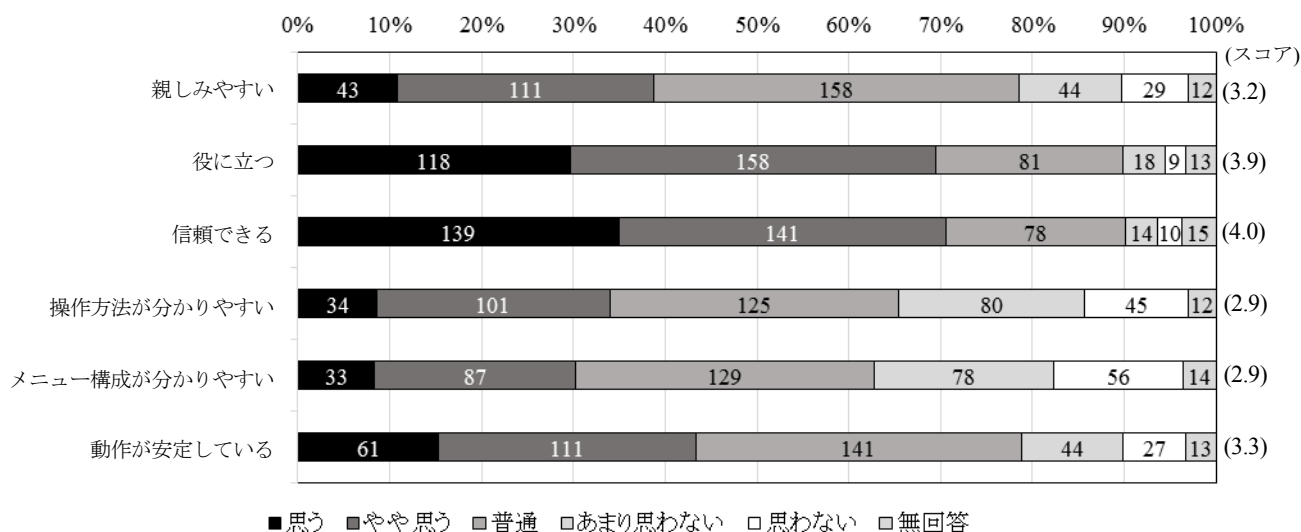


図3 Webサイトのイメージ

九大研究者のプロフィール・業績	12	2	5
その他	2	1	1
無回答	49	5	22

3) 検索機能を利用して困ったことがあれば教えてください。

結果は以下のとおりである。「入力したキーワードで検索がヒットしない」と「検索にヒットする件数が多い」という一見相反する問題が上位になっている。比較的多い「どこから検索したらいいかわからない」も、学部生の回答者が少なく(22件)、従来のOPACに慣れた層(大学院生・教員)のほうが戸惑っているのかもしれない。

なお、検索スピードについては、館内設置端末・ネットワークの問題によるところも大きい。

表10 検索で困ったこと(複数回答可)

入力したキーワードで検索がヒットしない	128
検索にヒットする件数が多いすぎて、どれがよいか選べない	106
検索スピードが遅い、つながりにくい	101
どこから検索したらいいかわからない	91
検索した資料の利用の仕方がわからない	36
検索結果の読み方や意味がわからない	35
その他	28
無回答	86

4) よろしければ、上記のときにどのように対処したか、教えてください。(自由記述)

主な対処方法として、下記のような意見があった。

(再検索)

- ・検索語を変更して、検索し直しました
- ・検索条件を広くしたり狭くしたりして調節するが、同義語でも表現や表記が少し違えば結果として表示されないこともある

(他サイトの利用)

- ・Googleなどで再検索し、絞り込んだ書籍のISBNを直接「九大コレクション」の検索欄に打ち込んでいます
- ・他大学の図書館のOPACを使う
- ・CiniiBooksで検索

(待機)

- ・仕方なく待った
- ・時間を置いてアクセスしたら上手くいった

(質問)

- ・秘書さんに依頼した
- ・図書館職員に尋ねた

(書棚を直接探す)

- ・大抵は待っていられず自分の足で図書館内を歩きまわり、目で追って探している
- ・調べても意味がないと思い、直接図書館に行った

5) 検索機能に対するご意見・ご要望があればお聞かせください。(自由記述)

下記の点について、複数の意見が挙がった。

(ディスカバリーサービス)

- ・使い慣れない方には「世界の文献」と「九大コレクション」の違いが分かりづらく思います
- ・九大図書館の蔵書や利用可能な電子論文を検索したいのに、データベースの検索が主になっているために大変利用しにくい

(所蔵検索)

- ・トップページを九大コレクションにしてほしい
- ・図書の所在を確認するだけの簡易的な検索機能がほしい

(検索速度)

- ・検索画面の結果が出るまでのスピードが遅い
- ・図書館の端末(iPad)で検索する時の速度がものすごく遅くて全然使えない

(検索結果)

- ・キーワード検索における漏れを減らしてほしい
- ・検索の入り口はシンプルすぎる一方、検索結果のゴミが多すぎる

- ・検索しても所蔵しているのか、またどこで借りれるのか、また配架場所などがわかりにくい

(機能)

- ・サイトが変わってから新着図書をちょっと見てみるという簡単なことができなくなりました
- ・機能を増やすよりも、まずは多くのユーザーが使う基本機能の使い勝手を高めて欲しい

3.7. 利用案内について

図書館の利用案内に関する設問に対しては、以下の回答が得られた。

1) 図書館の利用に関して、何を調べたことがありますか?

表11 利用に関して調べたこと(複数回答可)

開館カレンダー、開館時間	281
資料の利用方法・配置場所	191
施設・設備の利用方法	148
資料の取り寄せ方法	137
図書館までのアクセス	51
国立国会図書館デジタル化資料の利用方法	21
貴重資料の掲載方法	8

その他	3
-----	---

2) 知りたい情報にたどりつけなかった経験がありましたら、その内容をご記入ください。(自由記述)

資料の配置と電子資料の利用に関し、複数の意見があった。

(資料配置)

- ・どの場所にどの棚があるか分かりづらいので、欲しい本がなかなか見つからないことが多い
- ・資料の配置図が大まか

(電子資料の利用)

・日経テレコン21というデータベースの場所が最近までわかりませんでした(職員の方に教えていただきました)。文系図書室のデータベースが完全に分離されているのが不思議でした

・電子ジャーナルはテキストが入手できるのかどうか分かりにくい

3) 各種ガイドが掲載されている Cute.Guides を使ったことがありますか？

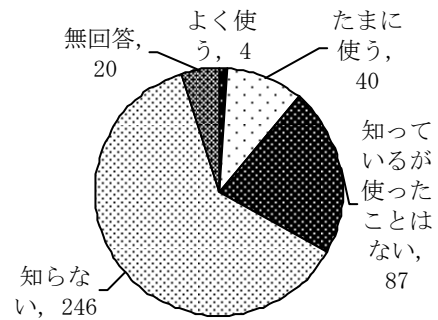


図4 Cute.Guides について

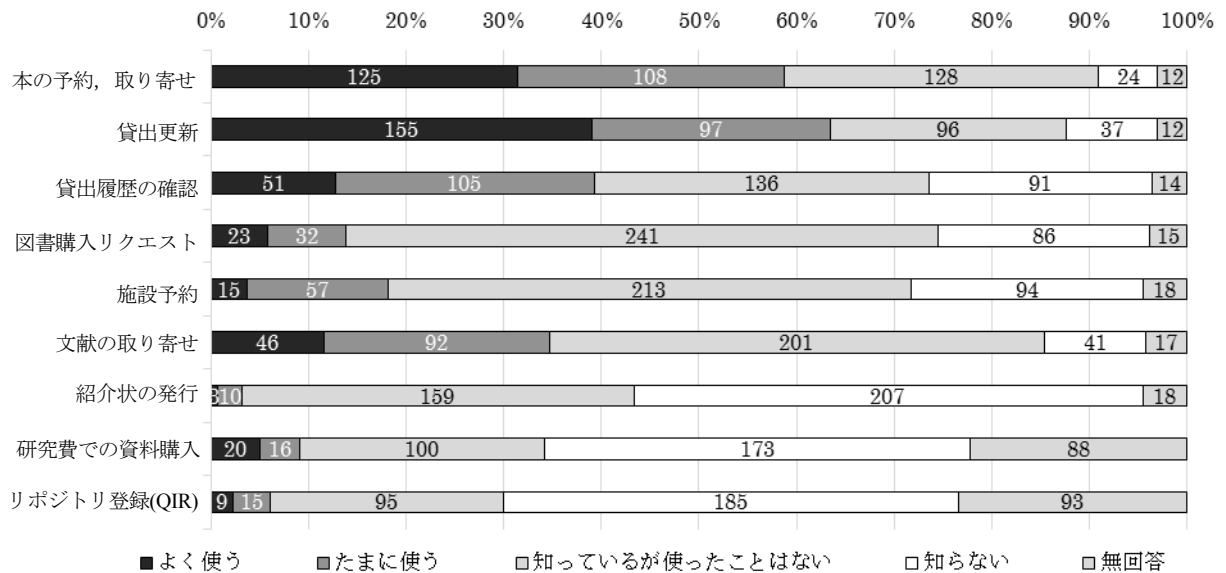


図5 Web サイトからの各種手続き (認知度)

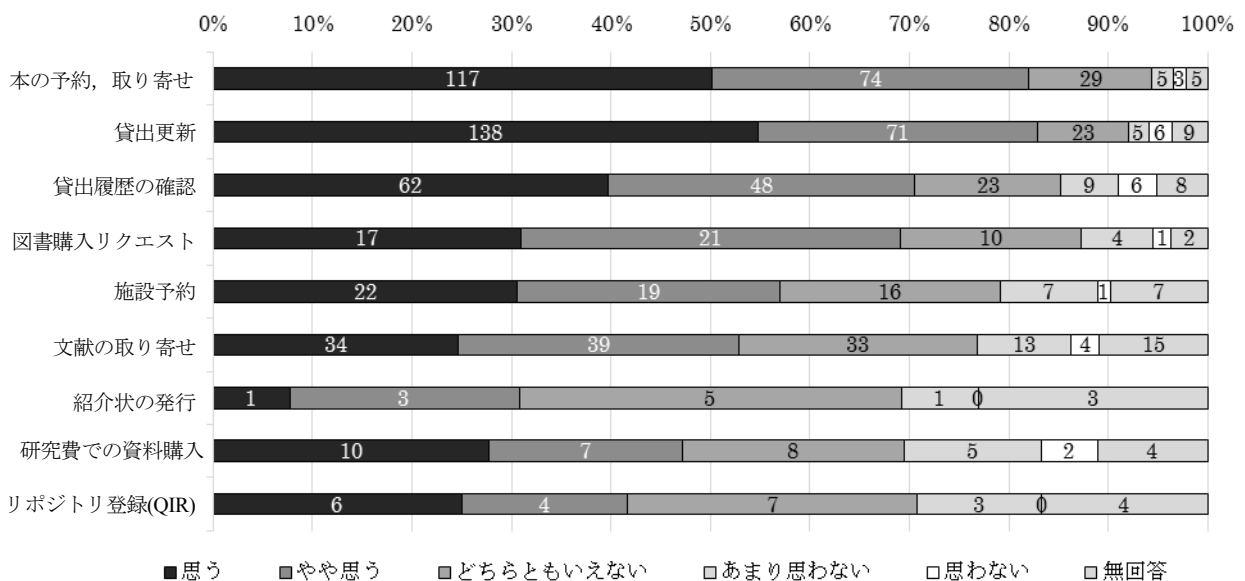


図6 Web サイトからの各種手続き (操作性)

4) 図書館の利用案内について、ご意見・ご要望があればお聞かせください。(自由記述)

以下は、回答の一例である。

- ・Cute.Guide は各種ガイドの一覧ページの割にはやや見つけづらい
- ・研究室貸出という曖昧な所蔵情報が困る
- ・国会図書館など学外の施設との利用提携がわかりにくい
- ・各種案内が目立たない位置にあることが多く、図書館の方で何をされているのか分からない

3.8. Web サイトからの各種手続きについて

1) 以下のサービスを Web サイトから利用できることをご存知ですか？

図 5 (前頁) のとおりである。

2) 上記の質問で、「よく使う」「たまに使う」と回答した方にお尋ねします。以下のサービスについて、操作方法は分かりやすいと思いますか？

図 6 (前頁) のとおりである。

3) Web での各種手続きに対するご意見・ご要望があればお聞かせください。(自由記述)

以下は回答の一例である。

- ・「貸出更新」という言葉が「貸出の延長」を意味していることが一見ただけではわかりません
- ・九大の他の図書館にて所蔵されている書籍を取り寄せたいが、画面に取り寄せの表示がなされない事がある
- ・Web で行える手続きの紹介ページがあると、便利だと思う
- ・貸出更新をする時に予約者がいるか、何人くらい待っているのかわかるようにしてください
- ・視聴覚ホールの予約をしたが、その後何も言っていないので、本当に予約されているのか心配になる

3.9. 図書館に関する情報収集について

1) どのようにして入手していますか？

学部生への広報は図書館内の掲示が、大学院生・教員にはメールが効果的であると言える。

表 12 情報収集の手段 (複数回答可)

	全体	学部生	院生・教員
大学 Web サイト	95	32	38
図書館 Web サイト	136	47	54
図書館公式 Twitter (@QLib_info)	33	22	5
図書館内の掲示	119	73	34

講義棟・研究棟の掲示	25	17	7
授業での紹介	20	18	2
きゅうと NewsLetter (図書館広報誌)	36	7	22
学生ポータル	43	33	10
一斉メール配信サービス	119	48	53
友人・知人から	31	16	11
その他	6	1	1
特に入手していない	70	12	42
無回答	14	1	5

2) 上記以外に、どのような方法で入手したいですか？

LINE や Facebook といった新しいメディアでの情報発信を望む声は少数派であるようだ。

表 13 それ以外に希望する情報収集の手段 (複数回答可)

メール	76
Facebook	41
LINE	32
その他	7
無回答	254

3.10. Web サイトのトップページについて

図書館 Web サイトのトップページにあってほしいものを尋ねたところ、以下の結果になった。もっとも高い値となったのは、現在のトップページにない「開館カレンダー」であった。

九大コレクションをトップページにという声が自由記述の各所で散見されたが、「世界中の文献を探すことのできる検索窓」へのニーズが少ないわけではないと言える。特に、教員の 53% (39 件)、大学院生の 33% (30 件) があってほしいと回答している点には注目したい。所属部局を調べてみると、特定の分野への偏りはなさそうである。一方、学部生では 18% (27 件) と比較的ニーズが少なく、「ディスカバリーサービスは学部生向け」としばしば言われていることとのズレを感じる。

表 14 トップページにあってほしいメニュー (最大 5 つまで)

	全体	学部生	院生・教員
開館カレンダー	203	92	72
九大の所蔵資料や研究成果を探すことのできる検索窓	166	72	61
世界中の文献を探すことのできる検索窓	113	27	69

図書館からのニュース・イベントのお知らせ	107	36	36
図書館の使い方のページへのリンク	56	19	23
九州大学に所属する研究者の論文一覧ページへのリンク	52	29	16
よくある質問 (FAQ) へのリンク	52	26	15
図書館が所蔵する貴重資料一覧ページへのリンク	43	12	21
その他	10	3	2
無回答	48	8	23

3.11. Web サイトの満足度について

Web サイトの満足度を0~100%で評価してもらったところ、平均値は67.18%、中央値は70%であった。

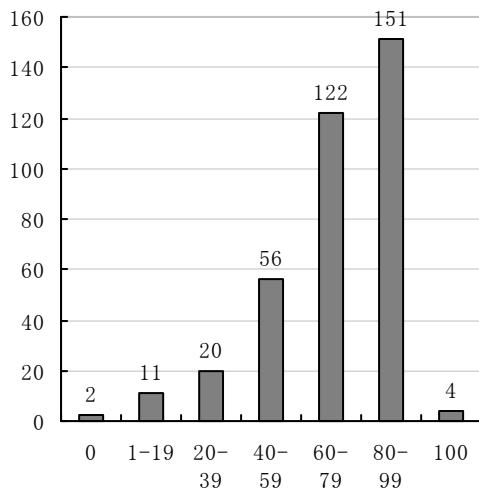


図7 Web サイトの満足度

3.12. その他の要望・意見等

最後に、Web サイトや検索サービスへの要望・意見を自由記述で尋ねたところ、デザインと検索性に関する要望が多く挙がった。

(デザイン)

- ・ ださい。もっと利用しやすく、デザイン性のあるものにしてほしい
- ・ マイページが味気なくなったのが寂しい限り
- ・ 慣れるととても使い勝手がよいのですが、なんとなく覗きにページを訪れた人は0.5秒で立ち去るレベルのシンプルさだと思います。
- ・ 慣れたものがなくなることに抵抗を感じます。なるべく以前のデザインを受け継いだうえで、新しい機能を加えてほしい

(検索性)

- ・ 九大図書館にアクセスしようとしている以上、九大所蔵の図書や資料の検索をトップページにする方

が利用者に対して親切ではないでしょうか？そんなに大勢の人が世界の学術文献を真っ先に検索したいと思っているのでしょうか？

- ・ 以前のOPACに比べ、使い勝手はよくない。不必要な情報が多すぎ、欲しい情報になかなかたどり着かないことがある

- ・ 図書館Webで用意されている機能は必要十分で、満足度は100%。ただ、検索スピードが遅く、使う気にならないので、全体の満足度は60%

また、下記のように、図書館の姿勢に対する指摘も寄せられた。

- ・ 文献検索システムが変更になる、というのは、既に数度経験してきましたが、利用者からすると毎度かなりストレスでした。日常生活が支障なくできていたのが、突然梯子をはずされた感じでした。これまでのものに対して改良した、という自負もお持ちかと思いますが、「改良(しかも刷新)」したものの提供とはつまり、これまで空気のように気にせずに論文や本を調べ読み考えることができたのを、再編成することを唐突に要求されることです。道具や方法が際立ち目立つことは、必ずしもそれそのものの成功を意味しないはずで、何を大切に、何を蔑ろにしたり軽視してきたりしているのか、九大の図書館の姿勢が見え隠れするように感じずにはられない。

- ・ 図書館のスタッフの方々には、皆さんいつも非常に親身になって対応して下さいだけに、Webサイトや検索サービスの現状はとても残念です。「世界中の文献を」と言った大それたテーマの前に、探したい情報・目的がはっきりしているユーザーが、ストレス無く目指す情報にアクセスできるよう改善して欲しい。検索方法でつまづいた時に参照できる情報・体制が少なすぎるように思います。

- ・ 現在のwebサイトはスマホでの利用をメインに考えたデザインだと思いますが、こうしたデザインを採用していること自体、情報収集はスマホでの検索で済ませる程度でよいという図書館の意思表示と受け取られるのではないのでしょうか。また実際その程度の検索で済ませてしまう学生が増えている現状に、益々拍車をかけることになり、Web上で信頼のできる複数のデータベースを検索・検証した後、図書館資料等Web上では検索できないものを調べるという、基本的な調査活動すら求めているということは、図書館の存在意義すら否定しているようにも思います。

4. 考察

アンケート回答から、現在の Web サイトに対し改善を希望する意見が多くあることが裏付けられた。具体的には、「3.5 図書館 Web サイトのイメージ」で操作方法やメニュー構成の分かりやすさへの評価が低く、利用者が求める情報へ即座に辿り着けない状況にあると考えられる。

検索機能に関しては、アンケート実施前に予想したとおり、図書館 Web サイトのトップページは「世界の文献」より「九大コレクション」の方が望ましいという意見が複数あり、所蔵検索に対するニーズの高さが伺われた。「最近では他大学の OPAC を利用するようになった」という意見も挙がっており、早急な対処が必要な箇所である。また、検索で困ったこととして、「入力したキーワードで検索がヒットしない」と「検索にヒットする件数が多すぎて、どれがよいか選べない」のいずれも回答件数が多く、利用者が期待する検索結果と、実際の検索結果との間にギャップが生じていることが推察できる。

利用案内に関しては、図書館の開館時間を Web サイトで調べるという回答が多く、「3.10 Web サイトのトップページについて」でも、トップページに開館カレンダーがあった方がよいという意見が最多であったことを、今後考慮すべきであろう。さらに、所蔵資料に関しては、所蔵情報の表記方法や配架場所の案内が分かりづらいという意見が、雑誌論文に関しては、書誌情報がヒットしても本文に辿り着けないという意見があり、一次情報の入手方法についてのナビゲーションの改善が必要であると考えられる。加えて、図書館職員や学生サポーターが作成した調べ方ガイド Cute.Guides についても、8 割以上の回答者が利用経験なしと回答しており、認知度が低い。

Web サイトからの各種手続きに関しては、本の予約取り寄せや貸出期間の延長について、認知度が高く、利便性も評価されている一方で、購入リクエストや施設予約については、一層の周知を図る必要があることが分かった。また、個々の機能で画面表示や操作方法が分かりづらいという声もあった。今後、操作性を検証し改善する必要があるだろう。

Web サイトのデザインに関しては、シンプルすぎるという意見が多く見られた。2013 年のリニューアル時に、サイトを使う目的に合わせて「探す・調べる」⁵「図書館を使う」⁶「マイページ」⁷の 3 つの入り口を設ける⁸という方針を定めたが、実質的には、検索機能に特化した「探す・調べる」がトップページであり、キービジュアルや開館カレンダーを配した「図書館を使う」が「入り口」としての機能を担えていないことを示し

ている。また、リニューアルによって、デザインや操作性が突然大幅に変更したことに戸惑う声もあった。今後のリニューアルでは、事前に利用者への情報提供を行う、新機能のリリースは段階的に実施するといった点を考慮すべきであろう。

5. 今後の予定

今回のアンケート結果を受け、至急の改善が必要だと判断された事項については、2015 年度中にシステム改修を実施する予定である。さらにアンケート回答者への個別インタビューや、窓口担当職員への意見聴取により、詳細な利用状況を把握し、次回のシステム更新へ向けた検討材料としたい。

謝辞

アンケートにご協力いただき、貴重なご意見をお寄せくださった皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

参考文献

- [1] 片岡真, 香川朋子 “変わる大学図書館：九州大学附属図書館のシステムデザイン,” 情報処理, 55, 5, pp.464-469, 2014.

¹ ProQuest 社の Summon <http://kyushu.summon.serialssolutions.com/>

² オープンソースの eXtensible Catalog (XC) <http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/>

³ 「Web サイトに関するアンケートにご協力ください (～1 月 31 日)」 <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/1539>

⁴ 大学院生と教員を 1 つのグループにまとめた理由としては、利用目的が学習主体か研究主体かの違いによって回答傾向に差が出るのかを分析したいと考えたことや、Web の利用頻度において大学院生と教員に類似性があったことが挙げられる。

⁵ <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja>

⁶ <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/libraries>

⁷ <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/activities> (要ログイン)

⁸ “図書館ウェブサイトリニューアル” (九州大学附属図書館年報 2012/2013, p.4, 2013) を参照